

平成22年度事務事業実績及び前期4年間取組評価表

事務事業名	青少年サービス事業	会計	一般会計	事業No.	811	施策順No.	28-013
		事業種別	政策・その他	予算科目	0 予算事業		
政策	2 地育力によるこころ豊かな人づくり	課等名			図書館		
施策	28 学習交流活動の推進	事業期間	開始	3	終了		

1 事業の目的

事業の目的は「対象」を「意図」した状態にすることです	対象	市内青少年(12歳から22歳を対象)						A十分達成した Bどちらかといえば達成した Cどちらかといえばできていない Dほとんど達成できていない
	誰、何に	具体的な数値で表すと(対象指標)	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	
		12歳から22歳人口	10640	10811	10811	10910	10910	
	意図	学習拠点施設として、児童と成人のはざまの世代へ、豊かな人間形成に役立つ資料提供を行う。						
対象をどう変えるか	事業の成果を具体的な数値で表すと(成果指標)	19年度実績	20年度実績	21年度実績	22年度目標	22年度実績	23年度目標	目標達成度
	ヤングコーナー(ティーンズコーナー)図書の貸出冊数	82277	83521	85863	70000	76211	83000	A
22年度の目標達成度に対する振り返り【政策的事業のみ評価】	中央図書館の耐震改修工事による休館があったが、目標達成できた。							

2 手段(具体的な取り組み内容)

事業の制度(仕組み)説明	青少年に向けたコーナーを作り、青少年用図書を収集・提供し、青少年の読書活動を推進する。		
	事業内容	名称	活動量・単位
22年度事業内容	1 青少年用図書選書・発注・提供 2 青少年向けお便り発行による情報発信 3 青少年用図書の展示・紹介 4 書架の更新・資料の除籍選書・処理 5 小中学校・高校との連携	1 購入冊数 2 お便り発行回数 3 予約件数 4 月1回除籍 5 年1回	1 1,372冊 2 6回 3 4,346件 4 月1回 5 年1回
23年度実施計画	よむとすinいいだ事業に統合	よむとすinいいだ事業に統合	

3 事業コスト

事業費	特定財源	(千円)	22年度予算額	22年度決算額	23年度予算額	特定財源内訳、補足事項	*この事業費は、図書購入事業費と図書館維持管理事業費と図書館運営事業費に計上。
	一般財源						
	国庫支出金						
	県支出金						
	起債						
	その他						
	計 (A)		0	0	0		
	正規職員所要時間			300			
	臨時職員等所要時間						
	人件費計 (B)			1,073			
	トータルコスト A+B			1,073			

4 事業に対する市民や議会の意見

この年代の活字離れも含め、幼児教育世代からの読書活動の大切さについては図書館協議会などで毎回話題となっている。
---

5 行財政改革の取組内容【経常的事業のみ評価】

行財政改革の取組区分	【記載不要】	具体的な取組事項	【政策的事業のため記載不要】
21年度決算と比べての効果額(千円)	【記載不要】	効果額説明(算出根拠)、特殊要因	【政策的事業のため記載不要】

6 前期4年間の取組評価(総括)

上位の施策への結びつき	上位施策の目的	学びの機会が得られる	施策の成果指標又はムトス指標	学習活動を行っている市民の割合
この事務事業は施策の目的達成にどのよう に貢献しましたか	4年間の振り返り	青少年サービスにおける各種取り組みにより、対象とする世代の貸出利用者数および図書の貸出冊数とも増加している。		
	後期に向けた課題	今後は、少子化がより進行していく中で、数よりも活動の質が問われてくると考えられる。		
この事務事業の成果を向上させるためにどのような工夫を してきましたか	4年間の振り返り	一昨年度より上郷図書館において、近隣の飯田高校と飯田女子高校に高校生向けの図書館だよりの発行を開始した。昨年度からは他の市内の高校へも配布先を広げた。		
	後期に向けた課題	中高生にとって魅力的なコーナーであるために、書架の品揃えが新鮮であることが重要であり、そのためには購入と除籍のバランスが常に吟味されていることが求められる。また、中高生に向けて、より効果的な図書館のPR方法を検討していく必要がある。		
コストを削減するためにどのような工夫を してきましたか	4年間の振り返り	職員が常に本の情報を収集し、中高生の要求を吸い上げて選書に当たっている。		
	後期に向けた課題	特になし。		
受益者負担の程度、市が関与する程度は適切でしたか	4年間の振り返り	図書館法で無料の原則が謳われている。		
	後期に向けた課題	特になし。		
多様な主体の役割の発揮状況 ①その主体は誰で、どのような役割を果たしましたか。 ②その主体が役割を發揮するために、行政はどのような働きかけをしてきましたか、又は、配慮してましたか	4年間の振り返り	中学・高校へのお便り配布については、各校の学校図書館および図書委員会に協力を依頼して実施している。また、市内小中学校については、学校司書および図書館担当職員との連絡会を持ち、教職員への図書館サービスの窓口を担ってもらっている。		
	後期に向けた課題	学校図書館とのさらなる連携。 中高生自らが、積極的に公共図書館と関わりが持てるような機会を設定できると良い。		
全体を通じて	4年間の振り返り	中学・高校世代は公共図書館の利用から離れてしまう時期になりやすいが、自らの意思で行動できるようになるこの時期に、図書館利用の習慣があれば、将来の図書館利用へのつながりが期待できる。そのため、青少年へ向けたサービスは重要であり、各種の取り組みは、それぞれ一定の効果あげている。		
	後期に向けた課題	今後は、図書館からのPRや働きかけだけでなく、中高生による読書会や座談会など、中高生自らが読書や図書館について発信する機会を設けるなど、学習交流をより深めていくことが課題である。		

7 「対象」「意図」「結果」の関係の確認

事務事業を統合・分割する必要はありますか	ある	対象や意図を修正する必要はありますか	ない	成果指標や指標値を修正する必要はありますか	ない
----------------------	----	--------------------	----	-----------------------	----

8 総合評価・次年度の事業の方向性改善の計画

<input type="checkbox"/> 完了	<input type="checkbox"/> 拡大	<input type="checkbox"/> 縮小	<input checked="" type="checkbox"/> 別事業に統合	<input type="checkbox"/> 休止廃止	<input type="checkbox"/> 現状維持	<input type="checkbox"/> 目的見直し	<input type="checkbox"/> 事業のやり方改善
-----------------------------	-----------------------------	-----------------------------	--	-------------------------------	-------------------------------	--------------------------------	-----------------------------------